

市政の最近のできごとを紹介します。



美しい文化財を次世代へ

摂田屋地区の名所・旧機那サフラン酒製造本舗の蔵の鍔絵を修復しました。日本とイタリアの専門家が表面のごみを除去し、剥がれた部分を補強。「日本一」ともたえられる美しい姿を後世につなぎます。(10月25日～11月15日)



若者が思い描く、まちなかの未来

まちづくりをテーマに活動する4大学1高専の学生たちが「若者が訪れたくなるまち」を語り合いました。学生たちの自由な発想を講師の林匡宏さんがイラストで表現。若者の夢が詰まったまちなかの未来図を描きました。(11月2日)



原子力災害を想定し、防災訓練

国や県と連携して行った原子力防災訓練に、山古志・小国地域の住民が参加しました。屋内への退避の後、代表者約90人がバスなどで魚沼市へ一時移転し、汚染状況の検査などを実施。避難の一連の流れを確認しました。(10月29日)



オール長岡で創作オペラを熱演

市立劇場の開館50周年を記念し、河井継之助などの先人の逸話や民話を題材にしたオペラ「長岡物語」を上演。作曲や出演者など、全て長岡ゆかりのメンバーで創り上げた圧巻の舞台で、多くの観客を魅了しました。(11月19日)



設立総会であいさつする磯田市長(11月13日)

フェニックス大橋4車線化へ期成同盟会を結成

国土木政策調整課 ☎39・2307

長岡東西道路の交差点改良やフェニックス大橋の4車線化などを目的とし、磯田市長を会長とする期成同盟会を結成しました。東西の市街地を結ぶフェニックス大橋の車の通行量は、平成25年の開通当初に比べて約1.4倍に増加。朝夕の通勤時間帯をはじめとした渋滞の緩和が求められています。磯田市長は設立総会で、「市民生活の利便性向上や地域経済の活性化、防災力の強化などに向けて、一刻も早い整備を実現したい」と述べました。市は今後、国や県に対し、同盟会を通じて早期の事業化を働きかけていきます。



中央浄化センターの敷地に設置した角度可変型太陽光パネル (11月14日)



中央図書館の壁面に設置予定の太陽光パネル (イメージ)

雪国対応太陽光パネルで 脱炭素・経済の好循環へ

再エネをビジネスチャンスに！
アイデア募集
 内容＝公共施設や未利用地で①雪国に適した再生可能エネルギーの導入実験②太陽光発電設備導入のビジネスモデル 申し込み＝①12月15日(金)②28日(木)まで
 ▲詳しくはこちら

1/31(水)まで 脱炭素への第一歩
事業者の省エネ設備入れ替えなどの費用を補助
 対象＝高効率給湯器、空調設備、業務用冷蔵庫など 補助額＝対象経費の5分の1以内(上限10万円)
 ▲詳しくはこちら

国が目標に掲げる「2050年カーボンニュートラル(二酸化炭素排出量の実質ゼロ)」の実現に向け、市は再生可能エネルギーの導入を進めています。
公共施設を活用し 実証実験スタート
 雪国でも効率的に発電できる太陽光パネルの普及を目指し、公共施設を利用した実証実験が始まりました。

実験の提案をした長岡技術科学大学と市内3事業者が、中央図書館などの公共施設や市道に順次、窓ガラス一体型パネルやソーラー街路灯などを設置。発電量の測定や耐雪効果の検証を行います。
 得られた知見は、省エネ・再エネの普及に取り組み企業や研究機関と共有し、雪国ならではのエネルギー産業創出や脱炭素の加速につなげます。
 環境政策課 ☎24・0528



自宅で暮らす障害者をサポート 緊急入所を24時間受け付けます

福祉課障害者基幹相談支援センター ☎39・2362

利用には事前の登録が必要です
 相談支援事業所を通じて申請してください。障害の程度や介護者の健康状態など個々の状況を確認し、短期入所施設の体験利用などを経て、登録を決定します。
 対象＝市内に居住する18歳～64歳の障害者

在宅で生活する障害者の緊急事態に備え、24時間対応の相談・支援体制を整備しました。障害者の状態の悪化や同居する介護者の急な病気などで障害者が一時的に在宅生活を続けられないときに、施設への短期入所に速やかに対応します。事前に本人や家族と相談し、入所先や支援内容を計画。緊急時の円滑な支援につなげます。
 在宅生活の不安を取り除き、障害者やその家族が安心して地域で暮らせるようサポートします。まずは相談支援事業所にお問い合わせください。